

平成27年度 文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業

劇場法の要請に応える、公共ホールスタッフのための社会デザイン力養成講座

～地域コミュニティ、共生社会、絆を生み出す場所と事業のマネジメントを学ぶ～

冬期集中講座

A 公共ホールのつくり方と動かし方を学ぶ 2015 冬期集中講座

日程／1月28日(木)～1月31日(日) 会場／あうるすぽっと 3階 会議室B ほか 受講料／9,000円 定員／30名 応募締切／1月18日(月)
 受講対象者／これからの公共ホールに関心を持つ方(ホール制作者、舞台芸術実演家、自治体職員、建築家、コンストラクションマネジメント等建築関係者、それぞれの志望学生等)
 研修制度／宿泊を必要とする受講生(東京・埼玉・神奈川・千葉からの参加者を除く)に、旅費と宿泊費を補助する研修制度を設けています。詳しくは、事務局までお問合せください。

カリキュラム ※冬期集中講座には、1月31日(日)の公開講座とシンポジウムが含まれます。

「社会と劇場の20年～95／15／35～」

日程／1月28日(木)・29日(金) 13:00～18:00
 阪神・淡路大震災、「新世紀エヴァンゲリオン」放映開始、Windows95発売。1995年から20年、わたしたちの社会はどのように変化し、未来を展望しているのでしょうか。社会デザイン、文化政策、そしてまちづくりの視点からこの20年を振り返り、これからの20年につながる公共ホールの在り方を考えます。

「池袋フィールドワーク～社会デザイン／演劇／都市計画～」

日程／1月30日(土) 10:00～18:00
 地域にはどのような可能性と課題があるのでしょうか。公共ホールの役割を発見するため、「社会デザイン」「演劇」「都市計画」のそれぞれの手法を使って、フィールドワークを実践します。グループごとに成果をまとめ、シンポジウム(翌1月31日(日))で発表します。

プレ講座「社会デザインと公共ホール」

日程／1月22日(金) 19:30～21:30 会場／立教大学 池袋キャンパス 15号館(マキムホール)10階 会議室 入場無料・要申込
 「公共ホールのつくり方と動かし方を学ぶ」を初めて受講される方を対象に、これまでの集中講座の概要をご紹介します、社会デザインの入門編講座を行います。

講師

 石川 治江 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科客員教授 (特非)ケア・センターやわらざ代表理事	 岸 正人 あうるすぽっと (豊島区立舞台芸術交流センター)支配人	 佐藤 信 写真／宮内勝 劇作家、演出家 杉並区立杉並芸術会館 「座・高円寺」芸術監督
 高宮 知数 立教大学社会デザイン研究所研究員 久留米シティプラザ館長	 槻橋 修 建築家、神戸大学工学部准教授 ティーハウス 建築設計事務所主宰	 中村 陽一 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科教授 社会デザイン研究所長
 西田 司 建築家、東京大学非常勤講師 株式会社オンデザインパートナーズ代表	 松田 正隆 劇作家、演出家 立教大学現代心理学部 映像身体学科教授	

夏期集中講座 受講生のコメント

現在、平成28年4月から予定している施設・設備の改修工事(約1年休館)に向けて準備を進めています。社会デザインという切り口で、公共ホールにどう取り組むのか、中長期的な視点が必要だと思えます。コミュニティの希薄化などの課題解決のために公共ホールが果たす役割を考え、講座の内容を現場で抱える課題の解決に活かしたいと思いました。

(深澤 拳一／武蔵野市 市民部 市民活動推進課 ※「武蔵野市民文化会館」改修工事予定)

1990年開館のホールのハード面での制限を感じ、ヒントを得るために講座に参加しました。「理想のハードの公共ホールはなく、運用面での理想はある」というお話をいただき、取り組むべき姿勢を理解しました。まずは、地域のことを見つめ直し、歴史や取り巻く現状をふまえて、公共ホールとしての可能性を探りたいと思います。

(半田 将仁／相模原市民文化財団 相模女子大学グリーンホール)

受講生の例


公益財団法人東京都歴史文化財団、神戸アートビレッジセンター、釜石市教育委員会事務局生涯学習文化課(市民ホール担当)、松山市役所松山駅周辺整備課、株式会社JTBコミュニケーションズ、NPO法人シニア演劇ネットワーク、武蔵野美術大学空間演出デザイン学科、青山学院大学国際政治経済学部国際コミュニケーション学科 ほか

公開講座

B 公開講座「文化の居場所～セソングループの取り組み～」

日程／1月31日(日) 10:00～11:30 会場／あうるすぽっと 3階 会議室B 入場無料・要申込 当日受付あり(100名)
 60年代の新宿紀伊国屋、風月堂、原宿セントラルアパート。70～80年代の西武池袋、渋谷PARCO、六本木WAVE。街には文化が息づく、「文化の居場所」がありました。これまで、そしてこれからの公共ホールはどのような文化の居場所になるのでしょうか。
 夏期集中講座で大好評をいただきました講座の第2弾を、どなたでも聴講いただける講座として開講します。

講師

 片山 正夫 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科特任教授 公益財団法人セソ文化財団常務理事	 毛利 嘉孝 東京藝術大学音楽学部 音楽環境創造科准教授
---	---

シンポジウム

C シンポジウム「まちと劇場」

日程／1月31日(日) 12:30～17:30 会場／あうるすぽっと 2階 劇場 入場無料・要申込 当日受付あり(250名)
 2012年「劇場、音楽堂等の活性化に関わる法律」(通称、劇場法)が施行され、コミュニティの中での公共ホールの在り方をあらためて問われるようになりました。時期を同じくして築40～60年を迎える全国の公共ホールが立替・大規模改修の時期を迎えており、今後10年間に新しく建てられる公共ホールをあわせると、その数は100館以上にのぼると言われています。
 このような時代の中で、豊島区には、先進的な取り組みをしている「あうるすぽっと」、また平成31年に開館予定の「(仮称)豊島区新ホール」があり、公共ホールを地域の文化拠点としたまちづくりのモデルとして、全国からの注目も集っています。
 本シンポジウムでは、豊島区の文化への取り組みを取り上げながら、これからの地域と公共ホールの在り方について考えます。

パネリスト

 高野 之夫 豊島区長	 吉岡 知哉 立教大学総長	
 石川 治江 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科客員教授 (特非)ケア・センターやわらざ代表理事	 片山 正夫 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科特任教授 公益財団法人セソ文化財団常務理事	 岸 正人 あうるすぽっと (豊島区立舞台芸術交流センター)支配人
 中村 陽一 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科教授 社会デザイン研究所長	 西田 司 建築家、東京大学非常勤講師 株式会社オンデザインパートナーズ代表	 松田 正隆 劇作家、演出家 立教大学現代心理学部 映像身体学科教授

応募要項

参加ご希望の方は以下の項目を記し、メール・FAX・郵送にてお申込ください。
 ①氏名・ふりがな ②所属(勤務先・学校名) ③住所 ④電話番号 ⑤メールアドレス
 ⑥申込のプログラム名 A「冬期集中講座(公開講座、シンポジウムを含む)」
 B「公開講座:文化の居場所」
 C「シンポジウム:まちと劇場」
 ※各プログラム・研修制度は申込先着順となります。お早めにお申込ください。

会場

あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)
 〒170-0013 豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル2F・3F
 東京メトロ有楽町線「東池袋駅」6・7出口から直結

お申し込み・お問い合わせ

立教大学 社会デザイン研究所
 文化芸術推進事業事務局(月～金/10時～19時)
 〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1
 Tel/03-3985-4893 Fax/03-3985-4725
 Mail/hall-koza@rikkyo.ac.jp 担当/川口、藤田、森田

